

自衛隊とともに防災意識の向上へ

茨城地本（本部長・栗秋一空佐）は、2月18日（火）、「水戸市いっせい防災訓練」に合わせて実施された水戸市立常磐小学校の防災教育を支援した。水戸市立常磐小学校では、小学4年生80名を対象とした防災教育を実施するため、自衛隊茨城地方協力本部へ協力を依頼した。自衛隊茨城地方協力本部は、1/2tトラック及びオートバイの装備品展示を実施するとともに、陸上自衛隊施設設学校へ野外炊具1号及び1t水タンクトラレーラの装備品展示並びに防災講話を、東部方面後方支援隊へ野外入浴セット2型及び野外洗濯セット2型の装備品展示を依頼し、防災教育を支援した。

防災教育は、はじめに、自衛隊の全般説明を行い、自衛隊の役割や災害派遣時の活動内容を紹介した。その後、2個グループに分かれ、ローテーション形式でそれぞれ装備品を見学するとともに、防災講話では、「命の大切さ」や「災害時の避難行動」について説明をし、最後に実際のロープを使用してロープワークを体験した。

児童は、普段接することのない自衛官や服装等にとっても興味を示し、多数の質問があった。また、装備品展示・防災講話では、真剣な様子で説明をきいており、実際に装備品を見て触れた児童は、とても驚いた様子であった。ロープワークの体験では、グループ同士で教え合いながら熱心に取り組んでいた。

防災教育は、小学4年生を対象として実施したが、昼休みを利用し、全校生徒が装備品を見学するとともに、近隣に所在する水戸市立常磐幼稚園の園児や職員も見学に訪れた。

今回の教育を通じて児童からは、「自衛官の体験を聞いて、興味を持った。自衛隊に入ろうと思った。」などの感想があった。

茨城地本は、「生活支援という部分で仕事ぶりを紹介できた。今後も防災教育に協力し、子供達の防災意識の高揚に繋がることを期待する。」としている。

※「水戸市いっせい防災訓練」は、東日本大震災を風化させることなく、市民一人一人が自分の身を守ることを意識させるため、震度6弱以上の地震を想定し、それぞれの場所で安全行動を行うことを目的とした実践的な訓練。

